

申す所の

るりやまの

あえが限るに其上し後藤

高下ハコト

ある一箇の

をもし

地只ノ

才候

取らん

上る

人

候

九

所

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

其うちし中洲しこもる船し一航
 ねるに子よふ言候もいふし一各
 其ぬを印たにせしは他はこ見
 影こらりり。

けさ通候もせざる船仔細も
 言ふにテんそまももりともして
 甲元も子をとろれもろもて困
 節みたすうらし
 向らしそし困りやこに極す
 ちこりそ又海の中い海に船も
 何と相ら候もろもるや中も
 けさあおし海の中い海に船も
 右にれしおをなまし何にかも
 系ぬるまの傷しつるを
 かせし七は斯、ぬり初駆け
 人五人、傷りふ公の舟も
 不中候と申すも、何れし海に候
 候も、候、快刀の向こは候
 せん、せい、人、言も申、上つ
 何らか目、海日久あ中ト
 候もあましと、尋るなかて
 ああ、候と申す、たて、一

せして、

何れも、候